

【5】 インシデント事例からの注意喚起

平成 30 年 10 月の院内インシデント報告事例の中から、医薬品を安全に使用するために注意すべき事例などを挙げています。今回は手術前に休薬が必要な薬剤についての情報を提供致します。

手術時に休薬が必要な薬剤について (女性ホルモン製剤)

月経困難症治療剤等の女性ホルモン製剤は、血液凝固能が亢進され、心血管系の副作用の危険性が高くなることがあるため、病態や手術内容に応じて休薬を検討する必要があります。

以下の表に、各薬剤の休薬期間の目安(添付文書、各種ガイドライン)をまとめましたので、ご参照ください。

	一般名	商品名 (院内採用薬)	手術時の休薬の目安		
			添付文書	低用量経口避妊薬 低用量エストロゲン・ プロゲステン配合剤 (OC・LEP) ガイドライン 2015 年度版	ホルモン補充療法 ガイドライン 2017 年度版
卵胞ホルモン製剤	エストラジオール	ジュリナ錠 0.5mg (科限)	術前又は長期臥床状態の患者は慎重投与	記載なし	HRT (ホルモン補充療法) の際は、手術のリスクによって 4~6 週間前から、術後 2 週間または完全に歩行ができるまで中止する
		エストラーナテープ 0.09mg (院外), 0.36mg (院外), 0.72mg	術前又は長期臥床状態の患者は慎重投与		
	エリストリオール	エストリール錠 1mg	術前又は長期臥床状態の患者は慎重投与		
	結合型エストロゲン	プレマリン錠 0.625mg	手術前 4 週以内又は長期臥床状態の患者は慎重投与		
黄体ホルモン製剤	メドロキシプロゲステロン酢酸エステル	プロゲストン錠 5mg	記載なし		
	ジヒドロゲステロン	デュファストン錠 5mg	記載なし		

卵胞ホルモン・黄体ホルモン配合剤	ノルゲストレル・ エチニルエストラジオール	プラノバル配合錠	手術が必要と判断される場合には、血栓症の予防に十分配慮すること	記載なし	
	エストラジオール ・ 酢酸ノルエチステロン	メノエイド コンビパッチ (院外)	術前又は長期臥床状態の患者は慎重投与		HRT（ホルモン補充療法）の際は、手術のリスクによって4～6週間前から、術後2週間または完全に歩行ができるまで中止する
	エチニルエストラジオール ・ ドロスピレノン	ヤーズ配合錠（院外）、 ヤーズフレックス 配合錠（院外）	手術4週間前、 術後2週間	30分を超える手術では、少なくとも手術の4週間前から休薬する。術後は、不動状態が解除されるまで再開を避ける。 ※4週間以上の休薬をおいた後に再会すると、再開後数ヶ月はVTEリスクが上昇する	記載なし
	エチニルエストラジオール ・ ノルエチステロン	ルナベル配合錠 ULD (科限)			
	ノルエチステロン ・ エチニルエストラジオール	フリウエル配合錠 LD 「モチダ」(院外)			
	エチニルエストラジオール ・ レボノルゲストレル	アンジュ 28 錠 (院外)			
		ジェミーナ配合錠 (21錠シート、 28錠シート)			
デソゲストレル ・ エチニルエストラジオール	マーベロン 21 (院外)				